



ワーク・シフト：孤独と貧困から自由になる働き方の未来図「2025」 =
Work shift / リンダ・グラットン著；
池村千秋訳 プレジデント社

本 館 K/366/G78
神田分館 /366/G78



法学部 教授 長谷川 聡 Satoshi Hasegawa

大学生が迫られる人生最大の選択の一つは「どのように職業生活を送るか」だ。何せ大学の試験は失敗しても単位を落とすだけで再チャレンジできる。だが職業選択に失敗すれば生きがいや社会的信用を得られず、再チャレンジの機会を与えられる保障はない。

この選択をさしあたり「就活」や「公務員試験」という言葉でとらえて、業界研究や試験勉強に励むことは誤っていない。しかし職業生活は半世紀近く続くこともあり、家庭生活や地域生活などの他の生き方全般と無関係には成立しない。この努力を働き方とその他の生き方の未来像を描きながら行わなければ、得られた将来は期待とはかけ離れたものになる。

本書はこの問いに対して、2025年に向けて主体的に3つのシフトを行うことで向かい合うことを提案している。著者 (Lynda Gratton) は経営組織論の世界的権威で、本書に影響を受けた経営者も少なくない。というと小難しい本と思うかもしれないが、著者はティーンエイジャーの息子が「ぼくは、本気でジャーナリストになりたい」と言ったことを一つのきっかけに本書を書いた。この本が出版されたのは2011年で、2025年までには現在ちょうど半分が経過したところだ。

著者の視点は現時点でどのように評価できるか、そんな視点で本書を読み解いても面白い。

将来を選ぶ権利を持つことは、選択後の人生の責任を自分で負うことを意味する。本書の原題は「The Shift」。

本書を読んだ君には、何の Shift を意味するだろうか。